

性差に基づく科学技術イノベーションの検討小分科会
(第25期・9回) 議事要旨

1 日時：令和4年5月10日(水) 13:00~15:00

2 場所：オンライン

3 出席者：渡辺 美代子、名越 澄子、河野 銀子、高瀬 堅吉、野尻 美保子、
伊藤 公雄、上田 修功、安田 仁奈、能瀬さやか(以上、名簿順)
(事務局) 大山 研次、内山 貴裕、工藤 慎也

4 議事要旨

(1) 前回議論の確認

第8回分科会の議事(資料1)について確認した。

(2) 見解案の内容について

見解案(資料2-1)の内容について意見交換を行った。主なコメントは以下の通り。

- タイトルを「性差に基づく科学技術・イノベーションの推進」から「性差研究に基づく科学技術・イノベーションの推進」にしてはどうか。「性差に基づく」だと「生物学的性差」のみに基づくのかという誤解を与えてしまうため、変更したほうが良い。
- 「LGBTQ+」に用語を統一することとした。
- 「見解等の内容」を、1) 性差を考慮した研究開発の推進、2) 性別に関する科学的知見の周知、3) 性別データの取得と公開とすることについて話し合った。
- 「ジェンダー統計」に用語に統一することとした。
- 「米国」、「欧州」に用語を統一することとした。
- 「公的研究費配分機関」に用語を統一することとした。
- 「2 歴史的流れ」について、いくつかの用語について脚注を加え、用語を説明する。
- 「(2) AIにおける公平性」の箇所に、AI研究への女性の参画が少ないことを記載する。また、それは工学を学ぶ女性が少ないことに起因することも記載する。
- 「見解等の内容」の4つ目に「各研究分野の研究者の人数の男女差の是正」を記載する。
- 「障害者」を「障がい者」に、「障がい者スポーツ」を「パラスポーツ」に用語に統一することとした。
- 「(3) スポーツと性」の箇所に、女性役員や女性コーチの数を増やすことを記載する。
- 図3を、比率を示す棒グラフのみとする。
- 「女性比率が低いと、女性が少数派として発言しにくい、例外として扱われるなどの問

題が起き得るため」という記載があるが、現実では問題は既に起きているため、それが伝わる表現に修正する。

- 「ジェンダー公平性を評価・改善するシステムの研究開発」の記載に関して、内閣府男女共同参画局等、具体的な組織名を記載し、研究開発する主体を明確にする。また、統計をとるばかりでなく、それを活用した制度設計などについても言及する。
- 見解の発出を経て辿り着くべき最終的なゴールは、「多少のアンバランスがあっても多様な人々の理解が得られる社会状況をつくること」である。そのため、そのゴールが適切に示される見解案を作成することが重要である。
- 事務局から修正に関するご連絡が届くので、関係する委員の方は5月中に対応する。

資料2-2～2-5を基に、見解案の今後の取りまとめについて、予定を確認した。

(3) 学術フォーラムについて

資料3-1～3-3を基に、内容、共催、予算について説明があり、承認された。

(4) その他

委員手当について、事務局より各分科会で2回分の委員手当での予算があることが説明された。

以上